

神奈川歯科大学附属病院

ニュースレター

2021年9月1日発行 4号



緊急対談 【2021年8月】

【司会】：井野 智 病院長/有床義歯補綴学教授-中央
対談 讃岐拓郎 歯学部歯科麻酔学教授-写真右側
棚橋泰之 短期大学部看護学科教授-写真左側

コロナ禍における歯科大病院の果たすべき役割



井野 智 病院長

史上初の緊急事態宣言が発令（2020年4月）されてから間もなく1年半。歯科外来では、携帯用の雨合羽を前後逆さまに着て、シャワーキャップをかぶり、汗だくになって見えない敵と格闘してきた。そんな我慢の甲斐もあって、何とか院内感染ゼロを維持することができた。その後、期待を寄せるワクチン接種が始まり集団免疫の獲得を目指す、苦戦している。街中では、変異型の登場で収束どころか爆発的な感染拡大の様相。歯科大病院で今できることは何か？本学での歯科医師によるワクチン接種に向けた取り組みについて紹介したい。

* 行政との綿密な情報共有 情報は待っていてもダメ

井野：「歯科医師によるワクチン接種に全面的に協力してもらいたい」横須賀市から本学へ要請があったのは、本年5月連休明けの朝でした。讃岐先生へ、医師法違反の阻却に関して、行政担当官との調整をお願いしました。いろいろご苦労されましたね？

讃岐：厚労省と情報交換を頻繁にしました。当時、一番の障壁は、4月26日付の厚労省発の文書にあった「特例的に歯科医師がワクチン接種を行うのは、集団接種のための特設会場に限り」という条件でした。この方針を崩さない厚労省と、個別接種会場としていた当院を安易に集団接種会場と認めることができない横須賀市との間で、空白の1週間が流れました。ただ、「特設会場」について定義があるわけではないので、解釈の問題だと感じていました。

井野：一方でその間、同じく条件となっていた「4項目の研修」のシステム作りに奔走されましたね？

讃岐：eラーニング用の動画は、厚労省から譲り受けることができました。昨年からの医療安全講習会のために、当院独自のオンデマンド講習システムを構築していましたので、これを利用することで、一気に学内の受講者数を増やすことができました。また、地域歯科医師会の先生方も参加できるように整備しました。

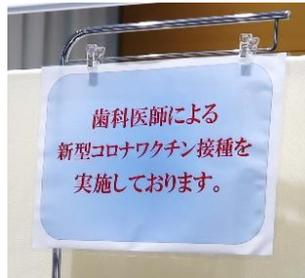


讃岐拓郎 教授

井野：そういう本学の準備状況を厚労省・横須賀市へ積極的に情報提供し続けたと思いますが、5月25日、厚労省からQ & A集が発信されて、急展開となりましたね？

讃岐：他（医療機関）からの問い合わせも後押しになったようですが、「自治体が設置する特設会場や地域住民を対象にワクチン接種を行う病院」へと、ようやく拡大解釈されました。一気に動いた感があります。

井野：このQ & A 発信の3日後、横須賀市から「ワクチン接種特設会場の開設および貴院歯科医師によるワクチン接種の実施について（依頼）」となりました。この時、行政を動かすには、情報共有が大切だと思います。



*** 三浦半島で、看護学科を有する唯一の歯科大学として**

井野：必須の研修の中で、筋肉内注射の実技講習にあたり、本学・看護学科の先生方のご協力には、大変感謝しています。棚橋先生、実技講習に関わってみて、感想をお聞かせください。



棚橋：本学の看護学科で使用している実技演習の器材がありましたので、すぐに役立てていただけただけで、スムーズでした。普段、歯科の先生方が使用する器具（注射器）と異なるので、実技研修は有意義だと思いました。未経験の方も多かったようですが、職業人としてのモチベーションが高く、感心しました。



棚橋泰之 教授

*** 地域医療貢献としての歯科医師の役割**

井野：当院の場合、4月から医療従事者の先行接種として、12階の講堂に特設会場を設営して昼休みに60名/日のペースで実施していました。接種スピードも大事ですが、高齢者だけでなく住民全体を考えると長期戦になるだろう。ということで、通常の診療業務 + αをどう組み込むか。すべてのスタッフが無理なく、効率的に行えることを提案したと思います。

讃岐：7月から毎週月・火曜日の10～14時までの4時間、一日最大120名を対象。最初は慣れないところもありましたが、順調にスタートしました。

井野：スタッフとしては、院務部（事務）を中心に医師・歯科医師・薬剤師・研修歯科医・看護師・看護助手・歯科衛生士・歯科助手など多職種で構成していますが、連携は大丈夫でしょうか？

讃岐：やはり、慣れた場所・知っているスタッフ同士で構成しているので、安心感があります。その点は、大規模接種会場や集団接種会場とは異なると思います。

棚橋：接種後の副反応で対応しなければならないことも、多々ありましたが、医師をはじめ看護スタッフも手厚く対応してくださり、感謝しています。

* 効率的なワクチン接種と廃棄ロスの防止

井野：予約はすべて横須賀市のコールセンター経由。120名/日の予約枠をコンスタントに埋めるのは至難の業。また、割り当てられた数のワクチンを無駄にしないために、当院独自のキャンセル待ちシステムを導入。7月末で、実に450名を超える方が登録されています。状況はどうでしょうか？

讃岐：やはり一般市民の接種では、とにかく、複雑な書面の取り扱いも多く、如何に安全でスムーズに誘導できるかにつきます。その点、当院の院務部事務スタッフの準備は万全で、臨機応変に対応してくれているので、本当に素晴らしいと思います。「廃棄ロスゼロ」は素晴らしいと思います。

* 県内の高校教員等を含めた職域接種に向けて

井野：同じ教育機関として、特に、高大連携ということを考えても県内高校教員の方への職域接種は、重要な役割となると思います。こちらは、本部実習棟で、モデルナ社製のワクチンと聞いていますが、いかがでしょうか？

棚橋：看護学科教員は、注射器への分注を主に担当しています。ここでも人事課の事務スタッフが廃棄ロスゼロに向けて、頑張っています。

普段、高校訪問でお会いする時はスーツですが、こちらが白衣姿なので、高校の先生方とは、いい意味で新鮮に接する機会となり、良かったと感じています。

讃岐：接種後、本当に感謝の言葉を述べられる方が多いです。普段、生徒たちと接する教員の方の切実な問題だったんだろうと思います。

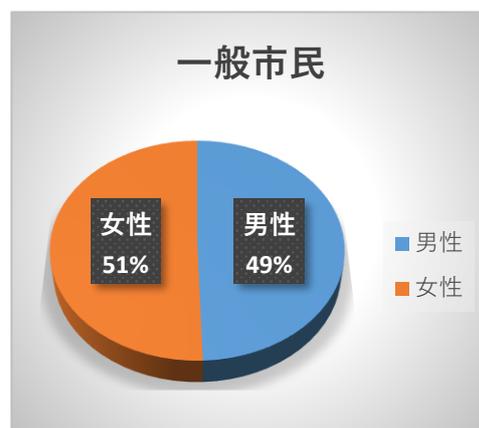
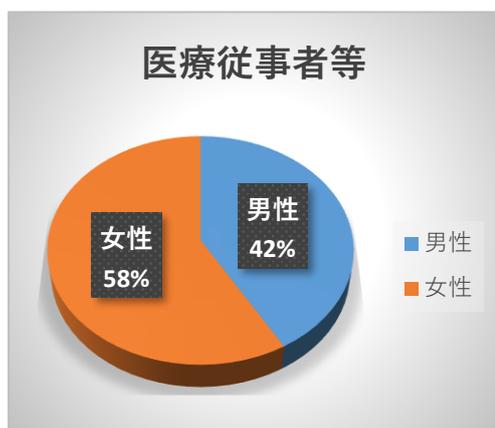
井野：海外では免疫力低下を懸念して3回目の接種が始まっています。一年後の為に今のうちにしっかりとシステムを整備したいところです。今日はいろいろとありがとうございました。引き続き、本学を挙げての取り組みですので、ご協力をお願いします。

新型コロナワクチン接種状況

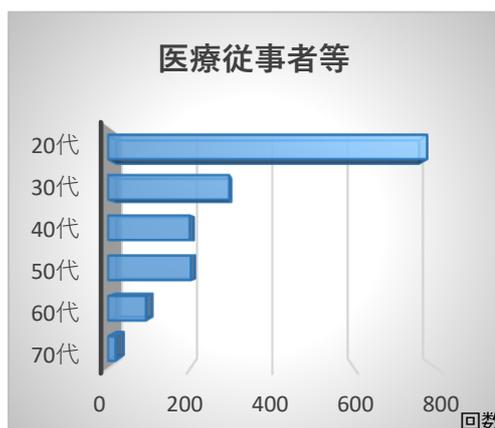
接種期間：令和3年4月21日～8月3日



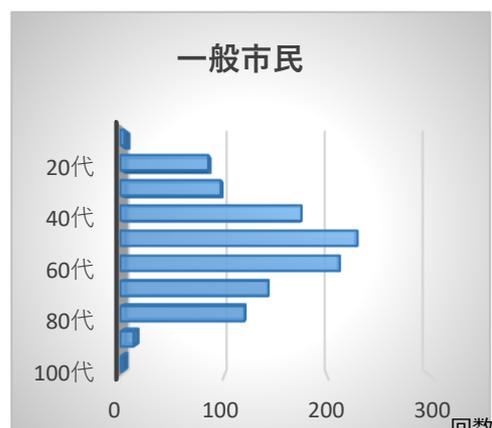
* 性別



* 年代別



* 医療従事者等には附属病院実習生を含む



* 一般市民にはキャンセル待ち接種者 64 名を含む

💡 歯科診療科のご紹介

歯科インプラント治療は、むし歯、歯周病、破折などで歯が抜けてしまった後、インプラント（人工歯根）を顎骨に埋め込んで、咀嚼力を回復させる治療法です。チタン製の金属を顎骨に埋め込むと強固に固定されるという概念が発見されて以来、すでに 50 年以上の歴史がある治療分野です。当科が最も心掛けていることは、「安全な治療」です。インプラント治療は手術を伴う治療ですので、安全に手術を行うための計画が必須となります。そのために、低い放射線量のコーンビーム CT と、デジタル技術によるコンピュータガイドを応用しながら手術に臨むようにしています。また、感染対策の行き届いた清潔な手術環境を整えることも重要で、専用の手術室を使用しています。さらに、病院全体で医科歯科連携を推進していることから、高血圧症などの全身疾患をお持ちの方や、手術が怖い方への麻酔科と共同した鎮静下での手術も行っています。医科歯科連携は院内だけでなく、かかりつけ医院や歯科医院とも連携し、患者さんにとってより良い治療の環境作り

に積極的に取り組んでいます。また、インプラントか、ブリッジか、義歯にするかでお悩みの方のご相談もお受けしています。

なお、治療は基本的に自費ですが、生まれながらに歯の無い方、唇顎口蓋裂の方、腫瘍や事故で顎と歯を失った方につきましては、保険でインプラントを行える場合があります。当院は、その治療認可を国から受けていますので、当てはまると思いの方はご相談いただけたらと存じます。



顎・口腔インプラント科

診療科長 河奈裕正

046-822-8880

デジタル歯科診療科は、公益社団法人日本補綴歯科学会の認定研修機関として、クラウン・ブリッジ・義歯・インプラント等の補綴治療全般と新材料・器材の検証を主な業務としています。当科の特徴は、最新のデジタル機器を完備したスマートオペレーションルーム（SORK）と連携し、歯科医療におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）（IT の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる。）を推進しています。

近年、歯科医療 DX は CAD/CAM 技術の進歩や口腔内カメラの登場により、日常臨床に浸透しつつあります。

CAD/CAM システムで製作されるクラウン、所謂 CAD/CAM 冠の保険収載はその一つで、小臼歯に始まり大臼歯そして前歯部まで適用範囲が拙速に拡大されたことが挙げられ、これまでの金属冠に比べて審美性が高いことから術者・患者の双方にとって大きな福音となっています。

また、口腔内カメラは、印象採得なしで口腔内情報を可視化（デジタル化）することが可能です。今後口腔内カメラの本格運用が開始されれば、補綴治療の診断や技工操作の多くはモニター上で行うことになり、歯科医療 DX はさらに推進することが予想されます。

当科は、これからも患者さまに不快の少ない、満足度の高いデジタル歯科治療を提供するとともに近隣の医療関係者の方々には最新のデジタル技術情報を共有することで地域医療に貢献してまいりたいと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

デジタル歯科診療科

診療科長 木本克彦

046-822-8880



歯科医療に革命的变化：

歯科医療にマイクロスコープが導入され、診断と治療領域に革命的变化が訪れました。歯科医療は、いわゆる密室の医療と非難されがちでしたが小型カメラを使用してチェアサイドモニターに映し出すことによりリアルタイムで歯科医療の進行や治療内容が説明可能になりました。歯科医療は、もはや密室の医療ではなく公開された医療に変化しています。

疾病層の治療から健康層の予防・審美治療へ：

マイクロスコープは、すべての歯科医療に応用されます。う蝕、歯周、および審美治療への応用は、審美的に優れているだけでなく、う蝕や歯周炎の発症を未然に防ぐ効果があります。歯科医療は疾病層の治療から健康層に対する予防と審美追及のニーズに応えられるよう変化しています。現在、当診療科は一般的な通常歯科診療以外に痛みの原因が不明、痛みが消失しない歯内療法（歯の神経や根の治療）を中心に行っています。マイクロスコープ診療は、診療時間が延長されるため基本的に保険外診療で実施しています。さらに、詳細な情報提供を望む患者層に対応するためにマイクロスコープ診療が必要とされています。マイクロスコープ診療科スタッフは、正確で確実な診断と治療を目指した近隣歯科医や国民からの高い信頼とニーズに応えられるように日々研鑽を重ねています。

マイクロスコープ診療科

診療科長 石井信之

046-822-8880



当科は病院3階にて顎義歯、多数歯の治療が必要な義歯、すれ違い咬合の義歯、義歯が不安定で疼痛コントロールの困難な症例、多数歯の抜歯が必要で咬合関係が大きく変化する義歯症例などを担当しております。

近年の欠損補綴症例は高齢者数が加速度的に増加していること、全身疾患による歯科治療の制限や服薬による唾液量減少など顎堤条件以外のリスクファクターが増加していること、また予防的觀念の浸透や健康増進プログラムの改善により歯槽骨吸収が進んだ状態から義歯へ移行するなど、義歯に対する口腔内環境は悪化していると言えます。インプラント治療を応用することで義歯沈下抑制や安定度改善に有効な治療方法も確立されてきておりますが、全身状態や外科的侵襲を伴うこと、経済的負担などの理由により一般的に広く普及するには至っており、デジタル治療の有床義歯への一般的な臨床応用には至っていないのが現状です。

義歯における難症例は、基本となる治療手順や使用材料を可能な限りプロトコルに則って進めていくことが大切になります。時間はかかりますが丁寧に治療を進めるとともに、下顎難症例には軟質リライン材の応用や、適応症の診断を十分に行った上で、顎・口腔インプラント科と共同してインプラント併用義歯にも対応しています。また、近年注目されているデジタルプリンターによる義歯やスポーツマウスガードの製作にも着手し、評価しています。

今後とも、皆様方との連携を深めるとともに、微力ではございますが地域医療へ貢献できますよう尽力してまいります。

義歯診療科

診療科長 清水統太

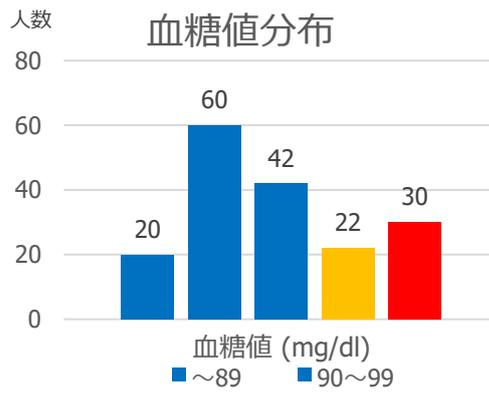
046-822-8880



* 次号は歯周病診療科、保存・修復診療科、
歯科麻酔科、画像診断科（歯科）です

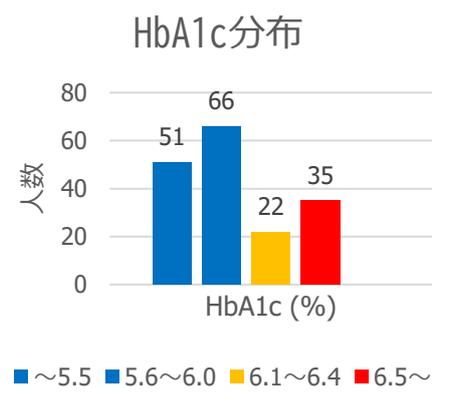
インスリン発見 100 周年を記念して 血糖値・HbA1c 測定会を開催

2021年6月7日(月)～18日(金)までの2週間、附属病院3階に臨時の測定会場を設置し、延べ174名(男性65名、女性109名)の参加がありました。血糖値とHbA1cとも約3割の方が基準値を超えていました(グラフ参照)。本測定会は、糖尿病の早期発見や血糖コントロール状態の把握に貢献し、今後も定期的に続けてまいりたいと考えております。



当院基準値：73～109mg/dl

110~119 : 要注意



当院基準値：4.9～6.0%

6.5~ : 糖尿病型

本院では病気の早期発見と予防を目的として人間ドックを開設しております。人間ドックではクイックドック(脳ドック)約2時間程度や半日ドックとして健診コースなどを各種取り揃えております。また、特に気になる箇所にはオプションを追加することで検査内容を充実させることも可能です。

本院では企業健診も承りますので、是非お問い合わせください。

お問合せ先

神奈川県立川崎大学附属病院 地域連携室(健診担当)
TEL: 046-822-8877(直) / 046-822-8810(代)

■脳ドックコース

コース	内容	所要時間	料金
脳と記憶のドック	血液検査・頭部MRI(MRA含む)・認知機能検査	約2.5時間程度	28,600円
動脈硬化予防脳ドック	血液検査・頭部MRI(MRA含む)・頸部MRA・頸部血管超音波	約2.5時間程度	36,300円
頭部MRI検診	頭部MRI(MRA含む)	約2時間程度	22,000円

- 基本ドック(肺・大腸・血液検査による胃がんリスク検診・歯科検診または頭部MTI)など
- 内視鏡ドック および オプションを追加することが可能です

地域連携室から

神奈川県立川崎大学附属病院では地域連携室で他医療機関からのご紹介や患者様からのご相談、予約管理に対応させていただきます。

お気軽にご相談下さい。

〒238-8570

横須賀市小川町1-23

神奈川県立川崎大学附属病院 地域連携室

電話 046-822-8877

FAX 046-822-8888

<http://www.kdu.ac.jp/hospital/>

